

図 2-3 : 岡山城（三之曲輪以内）と現在の市街地重ね図



岡山城主要部の現況航空写真（平成 21 年撮影） --- 国史跡範囲



## 2 岡山城と旧城下町の現状

### 1) 岡山城の現状

#### (1) 城郭の状況

##### ①本丸

明治維新後に城は兵部省（のち陸軍省）の所管となり、明治 12 年（1879）に御殿が、また明治 15 年（1882）に櫓・城門等の破却が行われ、本丸の建築物は天守閣と月見櫓を残すのみとなった。明治 23 年（1890）2 月には本丸を含む二の丸内屋敷以内が旧藩主池田家に払い下げられ、その後池田家所有のまま岡山中学校の用地となって本丸内には校舎が建ち並んでいたが、昭和 20 年（1945）6 月 29 日の大空襲により、月見櫓を残し、天守・校舎とも焼失した。また、昭和 9 年（1934）の室戸台風大水害の後、河川改修により本丸内堀の北西端部分が失われている。戦後、市が池田家より買収して都市計画公園「鳥城公園」としての整備を進め、昭和 41 年（1966）に天守閣等が再建された。昭和 62 年（1987）に一帯が国の史跡に指定されてのちは史跡として本格的な発掘調査や整備が進められ、現在も進行中である。築堤による旭川沿いの郭の一部消失や、土橋に改変された目安橋を除けば、石垣・堀は概ね廃城時の形態を良好に残している。鳥城公園は平成 18 年（2006）、後樂園とともに日本の歴史公園 100 選（都市計画公園法施行 50 周年記念事業実行委員会選）に選定された。

##### ●本段

本段には昭和 41 年に天守閣・不明門が鉄筋コンクリート造で、六十一雁木上門が木造で再建され、周囲には土塀がコンクリートブロック造により外観復元されている。本段御殿等建築物があった跡は芝生・植栽・園路等により公園として整備され、天守閣再建の際に天守台より取り外した旧天守の礎石が六十一雁木上門前に元の並びのままに配置・展示されている。

##### ●中の段

中の段には本丸唯一の現存建造物・月見櫓があり、廊下門が天守閣と同時期に再建されている。郭内は本段と同様公園として整備され、中ほどには昭和 28 年（1953）の産業文化博覧会開催時に建設されたコンクリート造の建築物が無料休憩所として存置されていた。昭和 62 年（1987）の史跡指定後は、「史跡岡山城跡保存管理計画」に基づき本段・下の段に先駆けて発掘調査・遺構修復・史跡整備が行われ、無料休憩所の撤去ののち平成 19 年（2007）までに御殿跡の平面表示・泉水復元・石垣修理等の整備が完成している。

##### ●下の段

市有化後、昭和 28 年（1953）に南東部一帯にテニスコートとその附属施設が建設され、



長く使用されてきたが、平成 17 年（2005）に撤去され、現在発掘調査と史跡整備事業が進められている。南側の入口たる内下馬門内と、北側入口たる馬場口門跡付近には来訪者の利便施設として公衆トイレが設置されている。全体的には概ね旧状を伝えているが、花畑御殿・馬場口門があった郭北端の搦手筋は築堤・河川改修と宅地化により大幅に変形している。

### ●内堀

昭和 58 年（1983）に所有者からの寄付により市有化されるが、北西端部及び南東端部は民有のままで、河川改修と宅地化により埋め立てられて旧状を失っている。もともと旭川との間の地下には注排水設備が設けられていたと考えられるが、河川改修によりそれが失われ、また木造の橋であった目安橋が土橋化して後は 2 つに分断された完全な滞水状態となっている。このため、水質の汚濁と汚泥の堆積が著しい。



土橋化された目安橋と内堀

### ②二の丸内屋敷

明治 15 年（1882）から本丸同様に櫓・城門の破却が行われ、建築物は西の丸西手櫓と御殿の一部、石山門及び対面所の御殿が残された。明治 23 年（1890）の払い下げののち、二の丸との間の内堀の埋め立てが進み、西の丸の南濠が明治 42 年（1909）に、それ以外は大正 4 年（1915）～6 年（1917）にかけて行われ、対面所北側の一部を残して消滅した。

### ●西の丸

西の丸は明治以降ほぼ一貫して学校施設用地となり、温知学校、医学校ののち、高等岡山小学校（のち内山下尋常高等小学校→内山下国民学校）用地となった。明治の破却を免れて残されていた御殿の一部（池田光政閑居の間）は昭和 7 年（1932）に内山下尋常高等小学校の校舎



西の丸石垣



石山門跡の石垣

新築のため、解体撤去された。戦後、西の丸は引き続き内山下小学校用地（平成 13 年 3 月閉校）となり、郭周囲の石垣も旧状を留めているが、戦災により門が焼失した石山門跡の石垣は戦後積み直されたり、門内を通る道路の嵩上げが行われたりして形状が変化している。また郭の北側～西側には西手櫓や石垣を覆い隠すように高層ビルが近接して建ち並び、城郭としての景観が損なわれている。



上空から見た西の丸

### 旧内山下小学校校舎

旧内山下小学校は、明治 20 年（1887）5 月、市内小橋町の国清寺内に創立され、明治 23 年（1890）8 月に岡山城西の丸跡地に移転し、平成 13 年（2001）3 月の閉校まで同地にあった。現在残る校舎は昭和 8 年（1933）・同 9 年（1934）に南棟が竣工し、その後同 12 年（1937）に東棟、北棟と渡り廊下が増築され、全館が竣工した。市内最古の鉄筋コンクリート造建築の校舎で、比較的簡素な造形の中に当時流行りの様式の反映も見られ、文化財的視点から見ても貴重な建築物である。



旧内山下小学校校舎(南棟・東棟)

### ●石山（円務院跡）

旧藩主池田家への払い下げののち、民家が建ち並ぶ住宅地となったが、昭和 9 年（1934）の大水害の後、旭川沿いに堤防が築かれ、郭の川沿いの部分が消失している。戦後、病院、放送局、市民会館の用地となり、かつての郭は地下に埋没するか、あるいは破壊され、地上に城郭の遺構を認めることはできない。

### ●旧本丸

維新後も旧本丸は引き続き旧藩主池田家の廟所が置かれており、空襲により全焼したものの戦後再建され、昭和 58 年（1983）の移転まで使用されていた。廟所移転後は隣接する病院の駐車場となったが、石垣の保存



石山の市民会館(左)、旧 NHK,(中)、山陽放送



状態は良好であり、昭和 62 年（1987）に本丸・後樂園とともに国の史跡に指定されている。旧本丸に接して、南側には内堀の一部（枅堀）が戦中まで残存していたが、戦後空襲の瓦礫により埋め立てられて消滅し、現在は西に隣接する放送局の駐車場となっている。

### ●桜の馬場

旧本丸と本丸の間にある桜の馬場は、払い下げ後、住宅地となり、空襲により全焼するも、戦後再び住宅地として復興している。

### ●対面所

対面所の跡は、維新後建物の破却は免れたものの、周囲の堀は一部を除いて明治期に埋め立てられた。旧藩主池田家への払い下げ後、同家の岡山事務所となり、二の丸から分家である生坂池田家屋敷の長屋門が移築され、正門として使用されていた。空襲により屋敷は全焼するが、蔵 2 棟と長屋門は焼失を免れ、戦後美術館用地となったのちも使用されている。

また、郭の周囲の石垣は良好な状態で遺存しているが、西面を除いて民家が建ち並んでいるため、目にすることはできない。戦前まで、郭の北に接して内堀の一部が残されていたが、空襲の瓦礫により埋め立てられて消滅した。

### ●東南の郭

東南の郭は、内堀の埋め立てののち大部分が市立商業学校、県立商業学校の用地となった。市立商業学校用地は戦後も引き続いて学校用地となり、市立丸の内中学校と幼稚園が置かれていたが、中心部学校統廃合により平成 11 年（1999）3 月に丸の内中学校は廃校となり、その跡地には県立図書館が建設され平成 16 年（2004）9 月に開館した。県立商業学校の移転後は市公会堂、工場用地、住宅地と



旧本丸の石垣(国史跡)



対面所跡の林原美術館正門



外下馬門石垣

なり、戦後南半分が県庁、北半分が住宅地となり現在に至っている。城郭の遺構としては外下馬門の北側石垣が遺存しており、県立図書館建設の際に行われた発掘調査時に確認された内堀の遺構とともに、平成19年(2007)に国の史跡に追加指定された。旭川沿いにも二の丸石垣が残っているが、この石垣を活用する形で堤防が築かれており、川側からでなければ城の遺構であることは確認し難く、また国史跡には指定されていない。



旭川沿いの二の丸石垣

### ③二の丸

重臣屋敷地であった二の丸は、維新後に大部分が学校・病院などの公共施設用地や住宅となり、三之曲輪との間の内堀は明治30年(1897)から同41年(1908)にかけて埋め立てられた。学校や病院の移転後は敷地がさらに細分化されたが、一部の街路には堀の形状や城下町の道筋の痕跡が残されており、例を挙げると、オランダ通りは二の丸と三之曲輪を隔てる内堀に沿った街路の跡であり、通り北端の岡山シンフォニービルの建設に伴う発掘調査により、地下から内堀西側の石垣が発見されている。土塁や城門の石垣等の遺構は旭川沿いの石垣以外目にする事ができず、城の正門たる大手門の位置も、発掘調査によらない限り確認が困難である。



天神山北端に残る石垣

### ④三之曲輪

三之曲輪西側から天神山・岡山神社の周囲を巡り旭川に通じる中堀は、明治14年(1881)2月に埋め立てられ、その跡はおおむね街路となった。天満屋とバスステーションの間を南北に走る街路がそれである。曲輪最北に位置する天神山は、その北端に石垣の一部が残されているが、文化施設の建設のために形状が大きく変



天神山の後楽館中高一貫校天神校舎跡地



化しており、堀に囲まれた丘陵であった面影は全くなくなっている。

### ⑤三之外曲輪・外堀

小早川秀秋が築いた二十日堀（外堀）は、廃城後の荒廃がひどく、その不衛生さが社会問題化していたため、明治8年（1875）5月、城郭建築物の破却に先駆けていち早く埋め立てが行われ、細い溝となった。同時に5箇所あった城門（伊勢宮口門・山崎町門・常盤町門・大雲寺町門・紺屋町門）も破却された。当初は溝以外の埋立地は売却する予定であったが、結局全てを売り払うことができず官有地



二十日堀跡の柳川筋

に編入され、市街地を南北に貫く道路（現在の柳川筋）となった。道路中央の溝は昭和初期までにはなくなり、その跡には岡山電気軌道柳川線（現在の清輝橋線）が敷設された。現在でも道路の形状に外堀の痕跡を認めることができるが、堀や土塁、門の枡形等の遺構を地上に目にすることはできない。

## (2) 城郭建造物の再建状況

岡山城天守閣は昭和20年（1945）6月29日の空襲で焼失するが、これを再建しようとする動きは昭和35年（1960）秋に結成された「岡山城再建期成同盟会」の発足により本格化し、その後岡山市がこの事業を引き継いだ。事業資金は逢沢寛氏個人の篤志融資1億5千万円と市民からの寄付金が充てられ、設計は田辺泰工学博士が、昭和2年（1927）に仁科章夫氏が卒業論文として作成した天守閣の実測図をもとに行った。工事は昭和39年（1964）に着工し、昭和41年（1966）11月に竣工した。天守閣のほか、天守閣に附属する塩蔵、不明門（櫓門形式）、廊下門（櫓門形式）、六十一雁木上門（薬医門形式）の4棟と、本丸本段を囲む土塀、月見櫓周囲の土塀が再建された。六十一雁木上門が木造である以外は、いずれも鉄筋コンクリート工法による外観のみ復元となった。

天守閣は、建築法規上の制約から、本来存在しなかった地階と天守台南面に埋門式の入口を設けるために、天守台の大部分が掘削されるとともに、入口部分の石垣が除去されており、築城時の天守台が大きく損なわれている。この他にも、白漆喰部分と黒下見板張り（ただし再建天守は板ではなくスレート）面積の比率、下見板張り部分の<sup>きさらご</sup>彫子の間隔、窓の位置や形状、懸魚の大きさ、破風の反り、各階軒先直下の屋根への二重瓦葺きの有無、最上階窓の突き上げ戸の有無等、復元天守と旧天守には細かい意匠の相違が数多く見られ、正確な外観復元とはなっていない。



本段を囲む土塀についても、芯がコンクリートブロックによる外観復元であるが、狭間の構造や配置が正確ではなく、また往時の本段周囲は全てが土塀ではなく、三階櫓や多聞櫓も建ち並んでおり、この点からも史実性を欠いている。月見櫓両脇に再建された土塀も、同様に外観自体が史実に基づく復元とはなっていない。

再建造物(上:天守閣、中左:六十一雁木上門、中右:不明門、下左:廊下門、下右:土塀)



### (3)本丸の保存整備状況

岡山城跡のうち本丸部分は、戦後の公園化後に修理や復元整備が行われていたが、昭和62年（1987）5月30日に国の史跡に指定されたことにより、その後岡山市教育委員会において本格的な発掘調査・歴史的環境整備事業が実施されている。

表2-2：本丸の保存整備状況

年度		内容
昭和29年度	1954	月見櫓の半解体修理（～昭和31年度）
昭和39年度	1964	天守閣、不明門、廊下門（以上鉄筋コンクリート造）、六十一雁木上門（木造）再建（～昭和41年竣工）
昭和56年度	1981	月見櫓の部分修理（瓦葺替え、外壁塗替え、窓格子の漆塗直し等）
昭和59年度	1984	六十一雁木石段道の一部復元修理
<b>（史跡指定後）</b>		
昭和62年度	1987	本丸、旧本丸、後楽園が国史跡「岡山城跡」に指定
平成3年度	1991	事前調査を実施、指定地域郭部分の測量図(1/500)作成
平成4年度	1992	岡山城跡保存管理計画検討委員を組織、「岡山城跡保存管理計画（原案）」作成 本丸中の段城郭遺構遺存状態確認のため発掘調査(4940㎡)実施（～平成8年度）
平成7年度	1995	「史跡岡山城跡整備委員会」設置
平成8年度	1996	本丸中の段北部の地盤造成及び同西側の石塁破損箇所修復
平成9年度	1997	本丸下の段北部の遺構確認の発掘調査(850㎡) 石垣台帳作成のため城跡石垣の現況調査実施 史跡岡山城跡保存整備計画(第Ⅱ期)策定
平成10年度	1998	本丸下の段南東部及び西部の城郭遺構確認の発掘調査（800㎡） 本丸内石垣修理対象箇所の実測及び実施設計策定
平成11年度	1999	本丸下の段西半一帯で城郭遺構確認の発掘調査(830㎡) 本丸中の段西側南半石垣の復元修理工事(解体工 44㎡)実施
平成12年度	2000	本丸下の段発掘調査報告書刊行 本丸中の段西側南半石垣の復元修理工事(解体工319㎡)実施
平成13年度	2001	本丸中の段西側南半石垣の復元修理工事(積直工 363.44㎡)実施
平成14年度	2002	中の段歴史的環境整備事業開始 ・表向御殿南部の平面的表示施工(1,044.2㎡)
平成15年度	2003	中の段の歴史的環境整備事業 ・表向御殿南半の平面表示(850㎡)



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同正面通路石敷復元表示(50m)</li> <li>・同南側段石垣復元(33m)</li> <li>・中の段西側石塁天場補修と外壁半立体表示(100m)及び柱立体表示(155m)</li> <li>・泉水復元。</li> </ul>
平成16年度	2004	<p>中の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表向御殿中央部の平面表示(1, 150㎡)</li> <li>・宇喜多期埋没石垣露出展示(2箇所)</li> <li>・泉水吐出口設置 等</li> </ul>
平成17年度	2005	<p>中の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表向御殿北部・小納戸櫓・多聞櫓・鉄門・井戸跡等平面表示</li> <li>・鉄門周辺の石垣・袖石垣補修</li> </ul>
平成18年度	2006	<p>本段・下の段・中の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本段石垣背後の発掘調査</li> <li>・下の段の基盤整備・試掘調査</li> <li>・中の段の表示。</li> </ul>
平成19年度	2007	<p>本段・下の段・中の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本段石垣修理</li> <li>・石垣実測</li> <li>・下の段の発掘調査</li> <li>・中の段の表示</li> </ul> <p>県立図書館敷地の一部が国史跡「岡山城跡」に追加指定される</p>
平成20年度	2008	<p>本段・下の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本段の石垣修理</li> <li>・石垣実測</li> <li>・下の段の発掘調査</li> </ul>
平成21年度	2009	<p>本段・下の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本段の石垣修理</li> <li>・石垣実測、石垣変位量調査</li> <li>・下の段の発掘調査</li> </ul>
平成22年度	2010	<p>本段・下の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下の段の発掘調査</li> </ul>
平成23年度	2011	<p>本段・下の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下の段の発掘調査</li> </ul>
平成24年度	2012	<p>本段・下の段の歴史的環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下の段の発掘調査</li> </ul>



図 2-4 : 史跡指定後の本丸保存整備状況



#### (4) 岡山城主要部の土地・建物の現況

##### ① 土地利用

岡山城主要部の土地利用は、公園化している本丸部分（烏城公園）の周囲の内堀南面・西面に沿って住宅用地となっているほかは、大部分が公共公益施設用地である。西の丸（旧内山下小学校跡地）周囲の内堀跡は商業用地となり、対面所（林原美術館）周囲の内堀跡は住宅・商業用地が混在する街区となっている。史跡指定されている日本丸跡は隣接する施設の駐車場として、県立図書館敷地は駐車場と公園として利用されている。

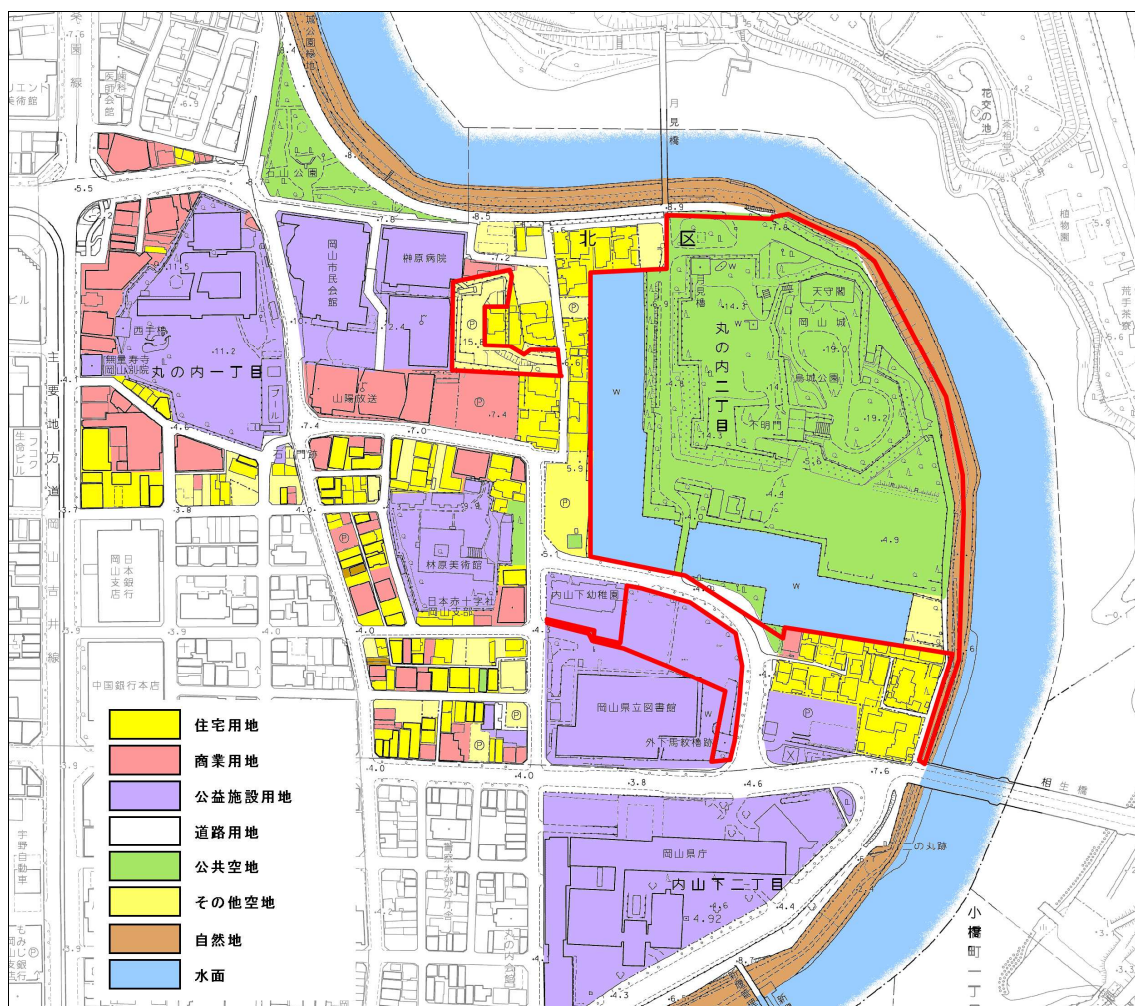


図 2-5 : 岡山城主要部の土地利用現況 (平成 18 年岡山県南広域都市計画基礎調査)